

通し番号	4906
------	------

分類番号	29-97-32-04
------	-------------

(成果情報名) 東京湾周辺海域におけるタチウオの産卵期や産卵場に関する情報
[要約] シャコの卵稚仔モニタリング調査においてタチウオ卵稚仔も混獲されることが判明したため、その出現状況を検討したところ、産卵期が5～11月で産卵場が湾口部の海底谷付近にある可能性が高いことなど、本種の資源管理の実施に向けて有益な情報を得た。
(実施機関・部名) 神奈川県水産技術センター・栽培推進部 連絡先046-882-2314

[背景・ねらい]

東京湾の重要資源であるシャコやマコガレイ、マアナゴの漁獲量は1990年代以降減少し、近年、小型機船底びき網漁業の対象として重要度を増しているのがタチウオである。

今後、タチウオの資源管理は必要不可欠な課題となる。その手法を開発するためには不明な点が多い湾内での本種の挙動についての情報の蓄積が不可欠である。シャコのアリマ幼生の出現状況をモニタリングする調査にタチウオ卵、仔魚が混獲されることが分かったことから、平成27～29年の5～11月に実施した調査の結果を用いて、本種の東京湾周辺における産卵期、産卵場の位置等について検討した。

[成果の内容・特徴]

- 3カ年の調査でタチウオ卵は5～11月に採集されたことから、この期間は東京湾周辺海域における本種の産卵期に当たるものと考えられた。この結果は1990年代に千葉県水産試験場が行った調査結果とほぼ一致した(田中・石井2004)。3年間の中では平成29年の採集量が最も多かったが、採集数が多い月は年によって異なり、大分県などの西日本の海域でみられる様な明確な2峰型の産卵盛期を形成するようには見えなかった(表1)。
- 3カ年とも、すべての月で湾口部の測点(st. 27及び136)から多くの卵が採集されており、湾口部の海底谷周辺に主産卵場が形成される可能性が高いと考えられた(表1)。
- 平成27年8月や28年7、9、10月及び29年8、10月には、湾の中にまで卵が広く分布する様子がとらえられ(表1)、湾口部の産卵場から湾内へ卵・仔魚を輸送する機構が存在することが伺われた。

[成果の活用面・留意点]

- 今回得られたデータからは、東京湾においてはタチウオの産卵期は5～11月と長く、西日本のように明確な産卵盛期は形成しないと考えられたことから、固定的な禁漁期を設定するよりも、大分県で実施されている満月から新月の間の6日間などの短期的な禁漁を散発的に行うことが有効な管理方策になるものと考えられた。
- シャコの幼生のモニタリング調査と同じ手法でタチウオの卵稚仔に関する情報が得られることから、両種の資源動向把握のための調査として今後も継続すべきと考えられた。
- 今後、卵の採集量とその後の漁獲加入量の相関関係などを調べ、このような調査の結果が本種の資源管理手法の樹立に資する情報となるか検討する。
- 卵、仔魚の湾内への輸送についての具体的な機構の解明と、DNA分析などにより東京湾のタチウオ資源が、東京湾口の産卵場由来であることの確認が今後の課題である。
- 4月や12月にも産卵する可能性はあるが、産卵親魚保護を実施する時期としては、初期、終期を除いた5～10月の間での保護策を検討すれば良いと考えられる。

[具体的データ]

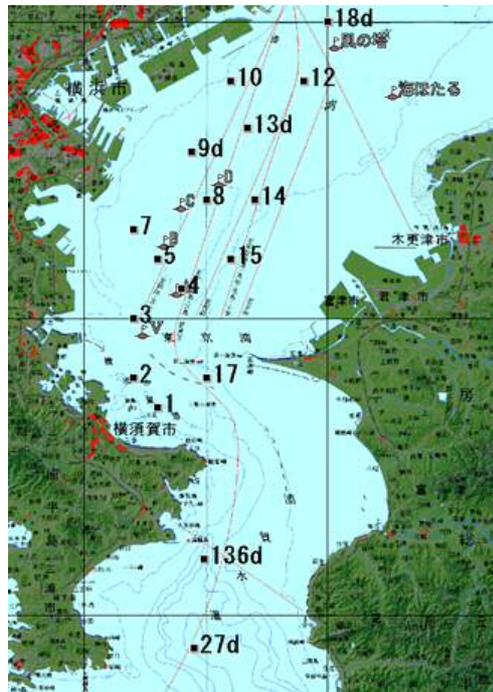


図1 アリマ幼生（タチウオ卵）分布調査の測点

表1 平成27、28、29年のタチウオ卵分布調査で採集された月別測点別の採集卵数/曳網（一重枠は5粒以上10粒/曳網未満、二重枠は10粒以上を示す）

st.	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	st.	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	st.	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
18	-							18	-							18							2.0	
10	-							10	-							10								
12	-			0.5				12	-							12								
13	-							13	-							13				1.5				
9	-	H27年						9	-	H28年						9	-	H29年					3.0	
8	-							8	-							8							1.0	
14	-					1.0		14	-							14				0.5				
7	内湾			1.0				7	内湾							7	内湾			0.5			2.0	
5	-							5	内湾			1.0		2.0	0.5	5							5.0	
15	-							15	-			0.5				15								
4	-							4	-			0.5				4				0.5				
3	-				0.5			3	-				1.0	1.0		3							11.0	
2	-				2.0			2	-			1.5	1.0	4.0	4.0	2			2.0	4.0			5.0	
17	-				0.5			17	-					1.0		17								
1	-				2.0			1	-			1.0	1.5	2.0	3.0	1			1.0	2.5			6.0	
136	湾口		0.5	2.0	4.5	4.0	10	136	湾口	2.0	2.0	7.0	3.0	9.0	17.0	1.0	136	湾口	13.0	3.0	8.0	4.5	0.5	5.0
27	-		1.0	5.0	14.0	9.0		27	-		1.0	2.5	2.0	11.0		27	湾口	3.0	5.0	11.0	5.5	12.5		

[資料名] 平成28年度水産海洋学会研究発表大会講演要旨集

[研究課題名] 複合的資源管理型漁業推進対策事業

[研究期間] 平成30～34年度

[研究者担当名] 岡部 久